

# すみれ通信



すみれ通信は、医療・介護に携わる方に  
発信しています

## 2月号

(第128号)

〒 251-0031

藤沢市片瀬339-1

藤沢市医師会館

在宅医療支援センター

TEL 0466-41-9980

FAX 0466-41-9981

✉ fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp



### 第3回市民公開講座 報告

日 時：令和8年1月17日(土)

10:00～11:30

場 所：藤沢市湘南台市民センター ホール

テーマ：最期まで自分らしい生き方

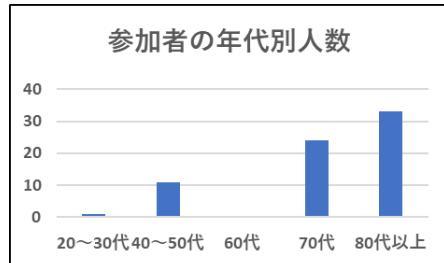
～知って安心!在宅医療～

講 師：湘南台スマイルクリニック

田口 篤 医師

参加者：73人 スタッフ9名 計82名

参加者状況：



アンケート：回収数 69 回収率 94.5%

(内容抜粋)

- ・昨今友人たちの間で本日講演内容的なものは話題になり多少の知識は得ていたものの本気で本日の講演を伺いこの機会に家族とともに真剣に考えてみたいとつくづく思った。
- ・人生会議(ACP)家族と考えてみようと思います。
- ・人の人生の終わり方は様々だということを実感しました。現在は種々のサポートが受けられる様で安心しました。
- ・先生の対応した事例のお話が一番印象に残り参考になりました。状況に応じた対応、利用者及び家族の心情など大変解りやすかったです。
- ・ACPの必要性。一人暮らしだけで正月や夏休みに帰ってきた時に話したいと思います。
- ・在宅医療に関わらず当人の意思、ACPの重要性を再確認した。
- ・在宅診療の仕組みがわかった。事例を踏まえた話だったのでよく分かった。



在宅診療をしている先生の優しいお人柄が目に浮かぶ  
講演で、多くの方に受講していただくことが出来ました。



在宅医療の現場から

白旗なのはなクリニック  
院長 龍瀧 憲治

白旗なのはなクリニック(善行ホームケアクリニック)の龍瀧です。私の在宅への道のりを少しご紹介させていただければと思います。

私は昭和40年代に雪深い富山の片田舎に生まれ、祖母のいる家庭でのんびりと育ちました。幼少期はアトピーや喘息があり、町のかかりつけ医を受診することが多い子どもでその経験が医師(病院ではなく診療所の)を志した原点になっていると思います。

人を臓器ごとではなく、「人を丸ごと診たい」と考え、内科(総合内科)を選びました。大学病院1年目、担当した60代の肝硬変末期の患者さんが、「どうしても大好きな本屋さんに行きたい」と強く希望されたことがあります。病状は一時的に落ち着いていましたが、指導医からは「データが悪いから駄目だ」と止められました。その後病状が悪化し「何である時に……」と言われた言葉は、今も私の心に残っています。当時は最期の心停止の場面で、蘇生処置も行いました。

その後、地方の市中病院で内科医として救急から入院治療まで幅広く経験し、高齢の患者さんが多いこと、そして治療だけでなく「死亡診断」や「看取り」も医師の重要な仕事であることを実感しました。さらに地方都市の救命救急センターに移り、救急医として24時間2交替でひたすら救急患者さんに対応しました。私の勤務帯は特に心肺停止(CPA)の搬入が多く、看護師さんから冗談交じりに恐れられることもありました。多くの死に立ち会う中で、穏やかな看取りに関わることが、医師としての自分の役割なのかもしれないと思いました。

その後は高齢者救急が中心の病院に移り、施設からの搬送、入院治療を通して、多くの方を看取させていただきました。次第に、「病院ではなく在宅や施設で、その人らしい最期を迎えていただくことはできないだろうか」という思いが強くなり、開業に至りました。

『かかりつけ医を最期まで』『最適解を求め続ける』地域の頼れるクリニックでありたいという思いから、日常の外来診療と在宅医療の連続性を大切にしています。人生100年時代となりましたが、誰もが最期の時を迎えます。その人その人の「物語」が、その人らしく完結できるよう、外来からの在宅診療を通して支え続けていきたいと考えています。しかし医療はその一部に過ぎません。「チーム藤沢」の一員として、看護・介護職の皆さんと共に、その人らしさを支える最適解を求め続けて行きたいと思っています。

今後とも、スタッフ一同よろしくお願ひいたします。